

PAWEES の活動と今後の計画 Activities of PAWEES and Its Future Plan

○松野 裕*

Yutaka MATSUNO*

1. 背景

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: 通称 PAWEES)は 2003 年の設立以来、農業農村工学会、韓国農業工学会、台湾農業工学会の支援のもと、水田稲作農業を核とした水環境分野における科学・技術振興を主にアジアにおいて推し進めてきた。PAWEES が母体となって発刊する国際誌 Paddy and Water Environment (PWE)は、2009 年にインパクトファクター (IF) の付くジャーナルとして SCIE (ISI データベース) に収録された。PAWEES 会長は 3 カ国が 2 年ごとに持ち回り、昨年からは Jin Soo KIM (韓国, 国立忠北大学) 氏が会長となっている。次期会長は 2019 年に台湾から選出される。PAWEES 事務局は農業農村工学会内に 2011 年以降固定されている。

PWE 誌の刊行以外に、PAWEES が担う主要な機能に国際研究集会の開催がある。また、国際研究集会の開催期間中に、PAWEES 国際賞、PWE 論文賞、PWE レビュー一賞の授与式が開催されている。国際研究集会は毎年 1 回、韓国農業工学会、台湾農業工学会、農業農村工学会が持ち回りで主催者となっているが、近年は農業農村工学会が主催する年はコアメンバー国以外で開催してきた (表 1 参照)。

表 1 PAWEES 研究集会開催国と都市

年	国	都市	年	国	都市
2003	日本	京都	2011	台湾	台北
2004	韓国	安山	2012	タイ	ノンタブリ
2005	日本	京都	2013	韓国	晋州
2005	台湾	台北	2014	台湾	高雄
2006	日本	宇都宮	2015	マレーシア	クアラルンプール
2007	韓国	ソウル	2016	韓国	太田
2008	台湾	台北	2017	台湾	台中
2009	インドネシア	ボゴール	2018	日本	奈良
2010	韓国	済州	2019	韓国	

*PAWEES 事務局長: Secretary General of PAWEES, 近畿大学農学部: School of Agriculture, Kindai University

キーワード: PAWEES, 水田・水環境工学

2. 2017年の活動

2017年11月9～10日に台湾台中においてPAWEES研究集会が開催された。ここでは、「持続的な水と環境の管理」をメインテーマとし、「持続的水利用と生態学的に持続的な開発」、「アジアにおける水と地域社会開発」、「持続的水田農業」、「統合的流域管理」、「干ばつと洪水リスク管理」をサブテーマとし研究発表がなされた。日本、韓国、台湾の主要参加国に加えインドネシアやタイなどからの参加者があった。発表は、一般口頭発表 (General Session) が 30 件うち日本からは 11 件、学生口頭発表 (Student Session) が 24 件うち日本から 7 件、ポスター 29 件うち日本からは 15 件であった。併せて PAWEES 賞の授賞式が行われたが、国際賞には日本からは塩沢 昌先生 (東京大学大学院教授) および凌 祥之先生 (九州大学大学院教授) が受賞した。

3. 今後の展望

2018年の研究集会は、奈良において INWEPF と共催し奈良県の全面的協力のもと開催する。久しく日本では開催されてこなかったが、関係各国からの要望もあり、12年ぶりに日本で開催することとなった。会場は、奈良公園内にある奈良春日野国際フォーラムで、そこで PAWEES 研究集会、INWEPF 会議、さらには ICID のワークショップを 11月20日から22日の期間に実施する。PAWEES 研究集会における発表には 235本 (うちポスター95本) の投稿があった。これらの中から選抜された論文は PWE に掲載される計画である。

PAWEES はその対象とする学術分野での成果を研究者間だけではなく、技術者や行政に向けて広く共有していく行動計画を策定することが近年求められてきている。それを踏まえれば、PAWEES は大学や研究機関の研究者のみならず今後はメンバー国の行政機関や国際援助機関、NGO などとの実体のある連携をより一層模索していくことが必要であろう。

一方、アジア地域、さらにはグローバル規模で PAWEES の活動の場を広げて行くに不可欠な財政的基盤を確立することには常に困難が付きまとっている。PWE においても、投稿論文数が増加している状況でその管理体制の強化を考えた場合の財政的な負担増にどう対処して行くかの積極的な議論が必要であろう。購読者あるいは論文購読者数の増加は、購読料収入のロイヤルティ増加に直結することであり、今後も PWE の積極的な宣伝および知名度向上に務める必要があるだろう。PAWEES 発足以来 15 年が経過し、近年の PAWEES の活動は PWE と共に進展が見られているが、今後のさらなる発展を目指していきたい。